

令和4年度予算事業及び運営方針（案）について

都島区役所では、「安心のまち、人がつながるまち、明日に誇れるまち」の実現に向けて、年度ごとに都島区運営方針を策定し、4つの経営課題を設定しております。

経営課題1 安全・安心のまちづくり

経営課題2 人と人がつながり、助け合うまちづくり

経営課題3 明日に誇れるまちづくり

経営課題4 区役所力の強化

委員のみなさまには、次頁以降の令和4年度都島区運営方針（案）（抜粋版）をご覧いただき、その内容について、ご質問や、事業を進めていく上でのアイデアについて、ご意見をいただきます。

令和4年度都島区運営方針（案）については、
区役所ホームページからご覧いただけます。



ホームページはこちらから

区の目標(何をめざすのか)

「安心のまち、人がつながるまち、明日に誇れるまち」の実現



区の使命(どのような役割を担うのか)

- ・区民の安全・安心を守る防災・防犯などを礎に、活力ある地域社会の実現
- ・地域の見守りなど、誰もが安心して暮らすための健康・福祉の充実
- ・水と緑の豊かな都島区の魅力を発信し、わがまち意識の醸成



令和4年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

- ・ 「幸せになれるまち、都島区」の実現をめざします。
- ・ 「教育力向上区宣言」を通して、教育力の高いまちの実現をめざします。

重点的に取り組む主な経営課題(様式2)

経営課題1 安全・安心のまちづくり

経営課題の概要	主な戦略	主な具体的取組(4年度予算額)
災害時の備えなど意識と行動が伴うよう、区民に対して、防災・減災の知識を高める啓発活動を進める必要がある。	(防災のまちづくり) 出前講座等での啓発や、広報誌、SNS等の様々な媒体を活用した情報発信を行うなど区民の防災意識の向上に取り組む。	(自助の取組みの推進) 日頃からの災害への備えや、迅速な避難行動につなげていくため、高齢者や子育て層など支援が必要な世帯に向けた啓発活動や、広報誌、SNS等を活用した情報発信に取り組む。 (605千円)

経営課題2 人と人がつながり、助け合うまちづくり

経営課題の概要	主な戦略	主な具体的取組(4年度予算額)
子育てをしている保護者の孤立を防ぎ、子育ての不安感・負担感を軽減するため、地域の子育て情報を周知するとともに、虐待相談を含む相談窓口を拡充する必要がある。	(安心して子育てできるまちづくり) 子育てに不安を持つ保護者等が気軽に相談できるよう、対面での相談に加え、SNS等を活用した子育て支援を推進する。	(子育て相談体制の充実) 子育ての不安感や負担感を軽減するため、様々な機会をとらえて相談できる窓口等を周知し、臨床心理士等の有資格者が専門性を活かし、相談に応じる。 (6,585千円)

経営課題3 明日に誇れるまちづくり

経営課題の概要	主な戦略	主な具体的取組(4年度予算額)
学校や家庭だけでなく、地域で子どもを支える場づくりなど、子どもが明るく健やかに成長できるよう、環境を整備する必要がある。また、経済的な理由等で学習面での機会が少ない子どもに対する直接的な支援が必要である。	(未来の都島を担う人材育成) 学校内外で、子どもを支える環境の充実に向けて取り組む。	(子どもを支える環境の充実) 経済面や家庭環境に課題を抱える小学生をサポートするため、学習支援・悩み相談を行う居場所を区内全9地域に開設する。 (7,376千円)

経営課題4 区役所力の強化

経営課題の概要	主な戦略	主な具体的取組(4年度予算額)
行政や地域活動の情報を、読み手視点でわかりやすく、かつ対象に応じた提供が必要である。	(区民の声が区政に反映される仕組みづくり) すべての区民に行政サービスや地域活動の様子をわかりやすく提供するとともに、読み手視点に立った情報をタイムリーに発信する。	(広報の強化) 広報誌を全戸配付し、区民にわかりやすい情報を提供する。特に若年層に関心を持ってもらうよう誌面を工夫するとともに、ホームページやSNS等を効果的に活用する。 (18,699千円)

令和4年度 都島区運営方針（案）抜粋版

市政改革プラン3.0に基づく取組等(様式3)

主な取組項目	取組内容
—	—
—	—
—	—
—	—

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向



経営課題 1 安全・安心のまちづくり

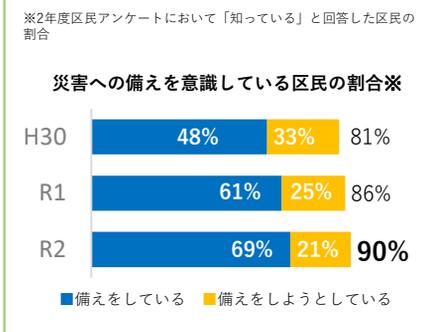
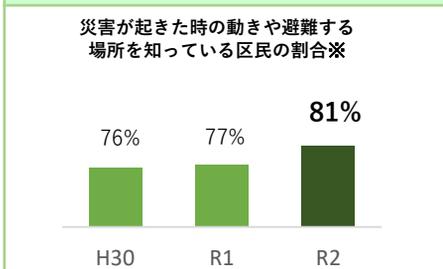


防災のまちづくり

めざすべき将来像
最終的なめざす状態＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

全区民が災害への備えをし、避難行動でできる状態

現状 ＜課題設定の根拠となる現状・データ＞



※2年度区民アンケートにおいて「何かひとつでも災害への備えをしている」「備えをしようと思っているが今はまだしていない」と回答した区民の割合

要因分析

＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果＞

- 災害時には、一人ひとりの意識と、日頃からの備え及び避難行動が重要であるが、区民アンケートでは、対象者の約2割が「備えをしようと思っているが今はまだしていない」と回答した。防災意識は見られることから、備えを行うための知識やきっかけが少ない可能性がある。

課題

＜上記要因を解消するために必要なこと＞

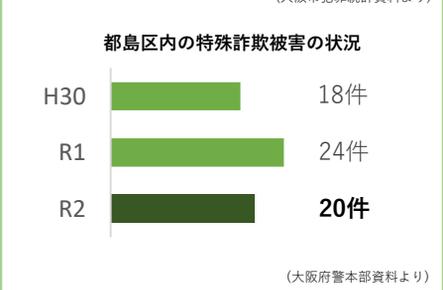
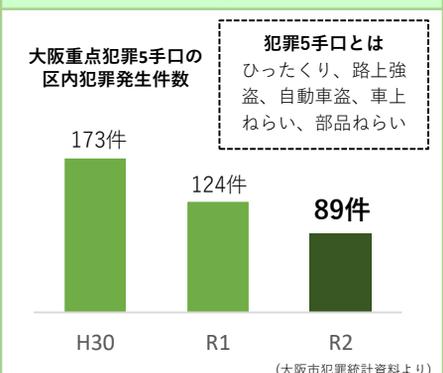
- 災害時の備えなど意識と行動が伴うよう、区民に対して、防災・減災の知識を高める啓発活動を進める必要がある。

防犯のまちづくり

めざすべき将来像

全区民が防犯を意識し、街頭における犯罪を抑止する環境が整っている状態

現状



要因分析

- 警察や地域と連携した啓発等に取り組むことで、大阪重点犯罪5手口及び高齢者等を狙った特殊詐欺の被害件数が減少しているものの、依然として被害が発生していることから、幅広い区民への啓発活動が行き届いていないことが考えられる。

課題

- 警察や地域と連携し、区民の防犯意識の向上に取り組むとともに、犯罪を起こしにくい環境整備にも取り組む必要がある。

安全で美しいまちづくり

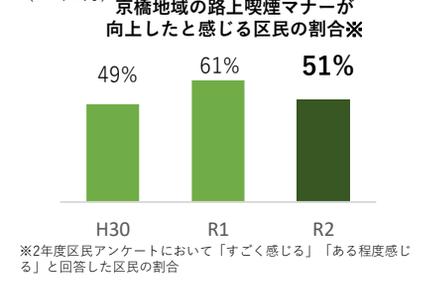
めざすべき将来像

ごみのポイ捨てや放置自転車が減少し、喫煙マナーが守られるなど環境に優しく、誰もが安全に通行ができる状態

現状



- 京橋地域を「路上喫煙禁止地区」に指定(27年2月)



要因分析

- 啓発活動による一定の効果が見られるものの、受動喫煙やごみのポイ捨てのほか、放置自転車等により、区民・来街者に不快感などを抱かせている可能性がある。

課題

- 歩行者が安全に通行できる環境を整えるために、市民協働型の啓発による区民等の環境美化意識の向上に取り組む必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

（この欄は評価結果の総括に関する内容が記載されています）

経営課題2 人と人がつながり、助け合うまちづくり



コミュニティ豊かなまちづくり

めざすべき将来像

これまで培われてきた人と人との「つながり」や「きずな」を礎にしながら、若い世代やマンション住民など、より幅広く人と人とがつながり、身近な地域の中で生活課題の解決に取り組むなど、地域コミュニティが活性している状態

現状

お住まいの地域で日頃から近所どうして「見守り・支え合い」等が行われていると感じる区民の割合※

H30	39%
R1	41%
R2	47%

※2年度区民アンケートにおいて「感じる」「ある程度感じる」と回答した区民の割合

地域活動協議会を知っている区民の割合※

H30	36.7%	上段：都島区 下段：市平均
	39.2%	
R1	35.2%	
	38%	
R2	48.8%	
	49.8%	

※2年度区民アンケートにおいて「知っている」と回答した区民の割合

要因分析

- 個人の生活様式や価値観の多様化、新たな生活様式を求められるなど、人と人とのつながりが依然として希薄である。
- 地域活動等への参加が少ない地域や、地域特性に応じた取組が進んでいない地域がある。

課題

- これまで地域と関わりが少なかった若い世代やマンション住民をはじめ、人と人につながる機会の提供が必要である。
- 地域の实情に即したきめ細やかな支援などを行い、より多くの住民参加による自律的な地域運営を推進することが必要である。

いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

めざすべき将来像

- 地域に福祉の身近な相談窓口があり、地域住民がお互いに見守り活動を行うことにより、安心して生活できる状態
- 区民がいきいきと健康で生活することができる状態

現状

地域福祉コーディネーターによる相談・訪問等活動件数

H29	9,154件
H30	9,025件
R1	10,831件
R2	14,218件

要因分析

- 地域コミュニティの希薄化を背景に、福祉課題の「複雑化・多様化・深刻化」が進み、支援につながらず、地域で埋もれている要援護者に対する支援の必要性が大きくなってきている。さらに、感染症拡大下における要援護者への対応も求められている。

課題

- 大阪市地域福祉基本計画の基本目標である「気にかける・つながる・支えあう地域づくり」をめざしつつ、「複雑化・多様化・深刻化する課題に対応するため、関係機関等と連携し、必要な支援をコーディネートする体制が必要である。

安心して子育てできるまちづくり

めざすべき将来像

- 母乳・授乳や育児について相談しやすい環境が整い、育児不安が解消され、いきいきと健康に暮らせる状態
- 子育て世代の保護者が、身近なところから支援を受け、子育てを楽しんでいることができる状態

現状

「子育て支援室」を知っている区民の割合※

R1	32%
R2	60%

※2年度区民アンケートにおいて「知っている」「名前だけ知っている」と回答した区民の割合

保護者へのアンケート

子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人がいない

都島区	10.7%
市平均	8.9%

(子どもの生活に関する実態調査(28年度実施))

要因分析

- 子育てに不安を感じる保護者が、相談できる場所が分からず地域で孤立する傾向にある。また、感染症への対応やライフスタイルの変化によって、対面での相談がしづらいケースがある。

課題

- 子育てをしている保護者の孤立を防ぎ、子育ての不安感・負担感を軽減するため、地域の子育て情報を周知するとともに、虐待相談を含む相談窓口を拡充する必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括



経営課題3 明日に誇れるまちづくり



魅力あるまちづくり											
めざすべき将来像											
まちの魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態											
現状											
水辺を活かした新たな名所「大阪ふれあいの水辺」の利用者数など											
<p>大阪ふれあいの水辺 利用者数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>利用者数</th></tr> <tr><td>H29</td><td>32,194件</td></tr> <tr><td>H30</td><td>31,373件</td></tr> <tr><td>R1</td><td>28,334件</td></tr> <tr><td>R2</td><td>30,865件</td></tr> </table> <p>(大阪府より提供)</p>		年度	利用者数	H29	32,194件	H30	31,373件	R1	28,334件	R2	30,865件
年度	利用者数										
H29	32,194件										
H30	31,373件										
R1	28,334件										
R2	30,865件										
<p>区への愛着を感じる区民の割合※</p> <p>感じる※ 91%</p> <p>※2年度区民アンケートにおいて「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した区民の割合</p>											
要因分析											
<ul style="list-style-type: none"> 三方を川に囲まれた都島区の恵まれた自然環境、歴史文化などの資源が、地域の魅力向上や活性化に十分に活かされておらず、新たな地域資源の発掘も不十分である。また、区外、区内への情報発信が不足している。 											
課題											
<ul style="list-style-type: none"> 区民が区の魅力を感じるような新たな魅力創出が必要である。 恵まれた地域資源を生かし、区内外から興味をもってもらえるような情報発信が必要である。 											

未来の都島を担う人材育成							
めざすべき将来像							
経済状況や家庭環境に左右されることなく、すべての子どもの可能性が最大限活かされる状態							
現状							
小中学生へのアンケート							
<p>ふだん(月曜日～金曜日)の放課後、ひとりである</p> <table border="1"> <tr><th>地域</th><th>割合</th></tr> <tr><td>都島区</td><td>19.5%</td></tr> <tr><td>市平均</td><td>17.8%</td></tr> </table>		地域	割合	都島区	19.5%	市平均	17.8%
地域	割合						
都島区	19.5%						
市平均	17.8%						
<p>いやなことや悩んでいることがあるとき、だれにも相談できない</p> <table border="1"> <tr><th>地域</th><th>割合</th></tr> <tr><td>都島区</td><td>5.7%</td></tr> <tr><td>市平均</td><td>4.0%</td></tr> </table> <p>「子どもの生活に関する実態調査」(28年度実施)</p>		地域	割合	都島区	5.7%	市平均	4.0%
地域	割合						
都島区	5.7%						
市平均	4.0%						
要因分析							
<ul style="list-style-type: none"> 子どもを支える人や場が不足しており、学びや遊びを通じた子どもの成長の機会が十分に保障されていない。 							
課題							
<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭だけでなく、地域で子どもを支える場づくりなど、子どもが明るく健やかに成長できるよう、環境を整備する必要がある。 経済的な理由等で学習面での機会が少ない子どもに対する直接的な支援が必要である。 							

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

--

経営課題4 区役所力の強化



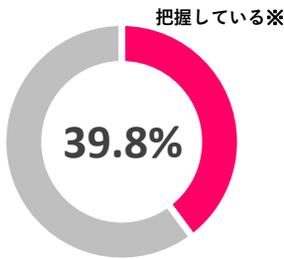
区民の声が区政に反映される 仕組みづくり

めざすべき将来像

- 多様な区民の意見やニーズを適切にとらえ、それらを踏まえた説明責任が果たされるよう区政に関する情報が区民全体に確実に届けられるとともに、施策や事務事業の企画・計画の段階から評価の段階に至る全てのプロセスにおいて区民の参画を得ながら、区の特長や地域実情に即した区政が運営される区民主体の自治が実現している状態
- 区役所が、区民に身近な総合行政の拠点として、信頼されている状態

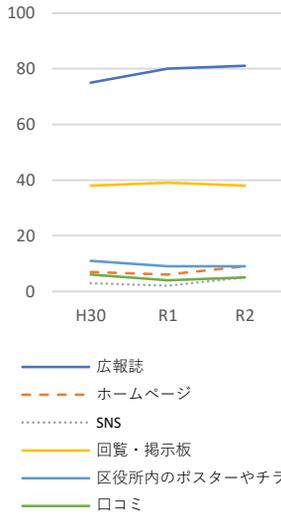
現状

区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると思う区民の割合※



※2年度区民アンケートにおいて「思う」「どちらかといえば思う」と回答した区民の割合

区役所からの情報を何から入手されていますか



（2年度区民アンケート）

要因分析

- インターネットやご意見箱等、様々な方法で区民の声を受け付けているが、行政へのアプローチに至らない、表面化しにくい意見を把握できていない可能性がある。
- 広報誌は、区政情報取得の手段として定着しているが、対象や発信する内容に応じて、ホームページやSNSの利用を高める必要がある。

課題

- 区民の意見やニーズの的確な把握と、それを区政に活かすための仕組みが必要である。
- 行政や地域活動の情報を、読み手視点でわかりやすく、かつ対象に応じた提供が必要である。

区民が満足・納得できる 区役所運営

めざすべき将来像

区役所が、区民をはじめ来庁者にとって快適で満足できる場所となるとともに、区役所業務の運営について、区民の視点から見て納得していただける状態

現状

来庁者等に対するサービスの格付け結果

H27	★☆☆	3.4
H28	★☆☆	3.2
H29	★☆☆	3.2
H30	★★☆	3.5
R1	★★☆	3.5
R2	★★☆	3.5

- ★3つ 全国に誇れる極めて高度なレベル(4.5～5.0)
- ★2つ 民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル(3.5～4.4)
- ★1つ 民間の窓口サービスの平均的なレベル(3.0～3.4)

（各区役所の来庁者等に対する窓口サービスについて民間の事業者による匿名調査）

要因分析

- 継続的に研修を実施した結果、サービスレベルの向上につながり、☆2つ(民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル)評価点平均3.5点を獲得したものの、評価点が3.5点を下回る窓口がある。

課題

- 窓口サービスの民間事業者の調査結果などを最大限活用した研修により、引き続き、職員の接客スキル向上に取り組む必要がある。
- 業務改善やICTの活用など効果的・効率的な業務運営を進めるとともに、これらを支えるものとして、働きやすい職場環境づくりを推進するなど、働き方改革を一層進める必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括